

タイム・アウト

今世紀のカオスの始まりは私達をまだ見ぬ未知の力に出会わせた。地球の人類の、市民の境界は今程はっきりとしたことはない。私達はこの数年の劇団の経験を通して、日毎この現実を感じる。ここに私達の新しいプロダクション『タイム・アウト』が始まる。

タイム・アウト！ もしくは休止。
時計を止める。一時見つめ、考える。
熟考する。

私はどこから来たの？ どこにいる？ どこへ行く？

求めているものは過去に過ぎ去ったものなのか、それとも今日の前に存在しているのか。夢か、現実か。私達が出会いたいものは感情。新しいアンタゴンのパフォーマンスは現実と幻想が溶け合い、観客を幻惑の世界へと誘う。

このパフォーマンスは過去と現実のイメージから、新しい未来の視野を表現する。

『アンタゴンのアリーナの円形舞台でアンタゴンシアターは圧力と暴力との戦いをサイエンスフィクションの形式で演出した。竹馬の哀れなクリエーターは鎖に繋がれ地下の牢獄で鞭打たれる。兵隊は前進する。人類は皮膚を脱ぎ捨てるが、それでもなお縛られたままであることを認識する。全体の雰囲気は音楽のリズムと踊りと印象的な舞台美術に培われる。絵画的なアンタゴンのショーは随時変化する気分と関係性の転覆にある。』

(Trottoir Heft 40番、9月から11月まで、Szene Rhein/Main)

私達はどんな時代に住んでいますか。
何が私達のリズムを生かしますか。

『鉄はネジ曲がり花道は燃え上がり1メートルの高さの竹馬のパフォーマーはステージを回転する。観客は身じろぎすることもできない。』

(Frankfurter Rundschau 8月4日2003年、Kultur Frankfurt)

70分のアンタゴン御墨付きのムーヴィングシアター！